

2014-6-3 アカゲザルの臍臓

安全性 生澤充隆

提出機関 University of Pittsburgh

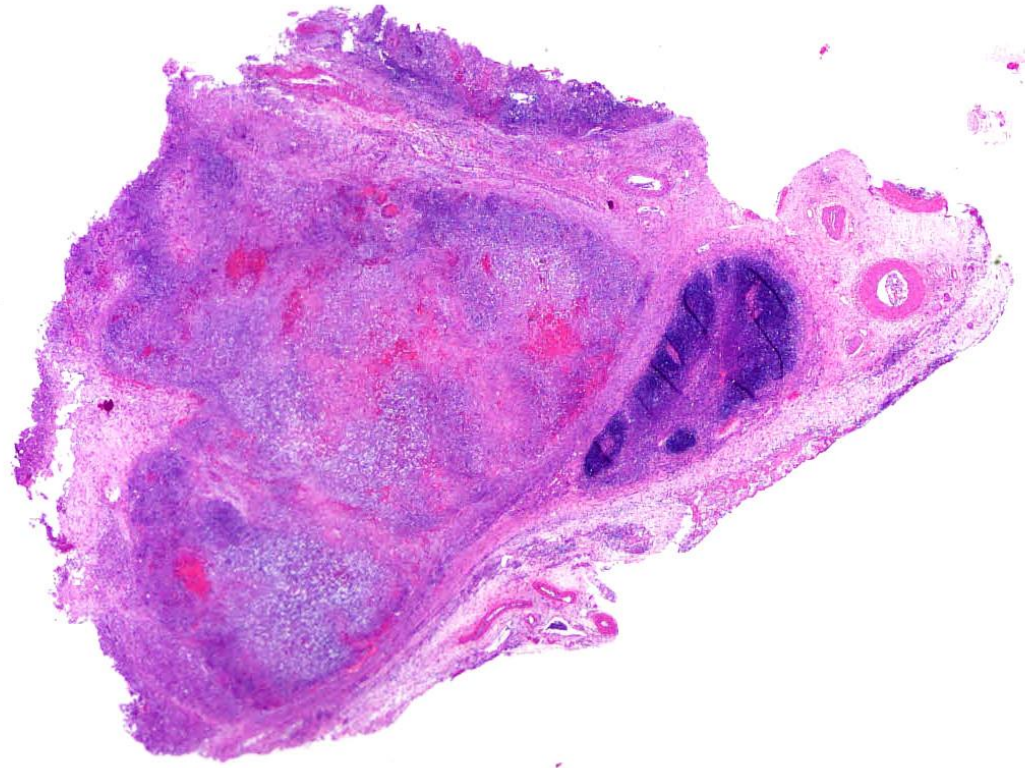
患畜 アカゲザル 成獣 ♂

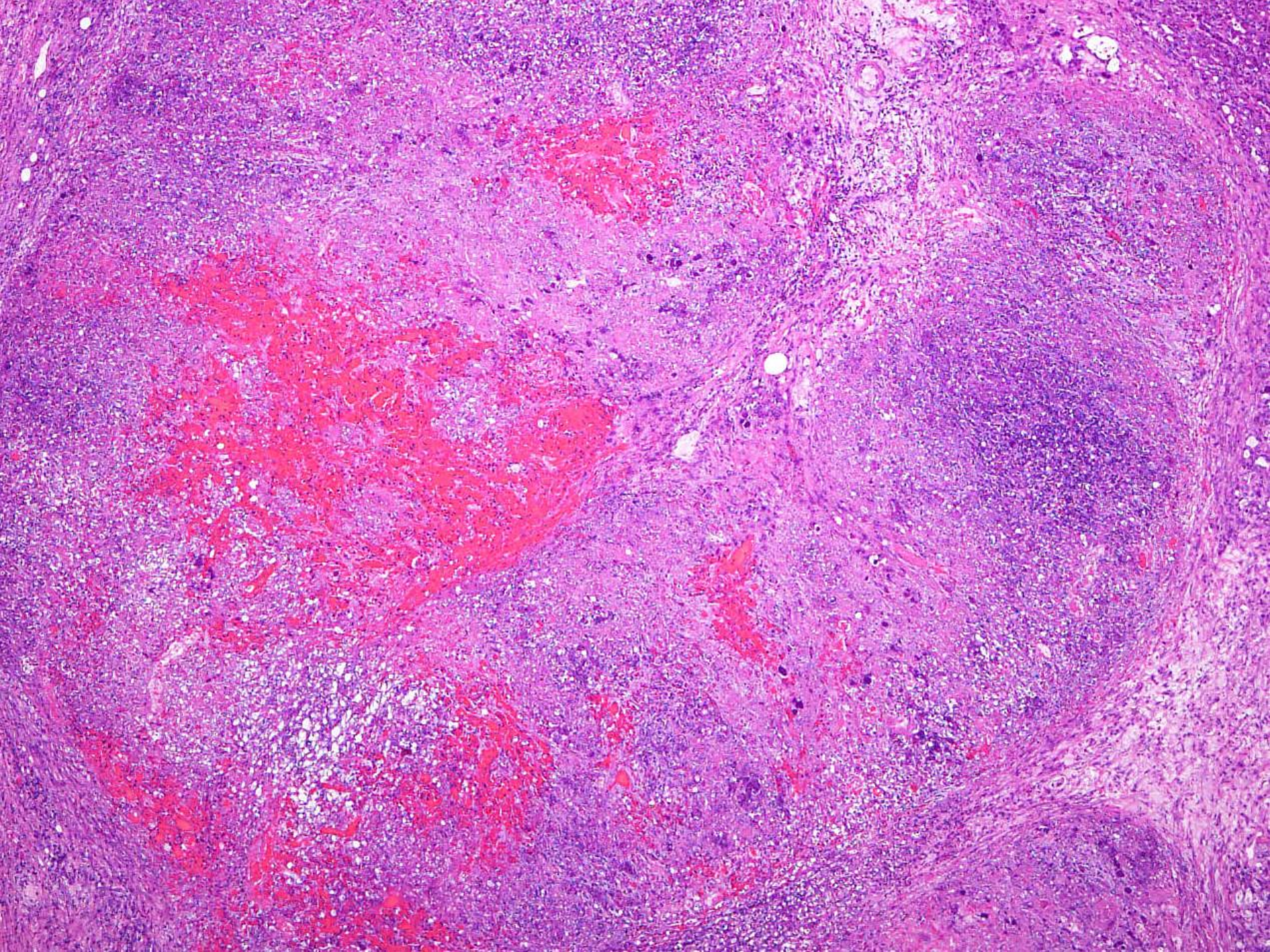
病歴

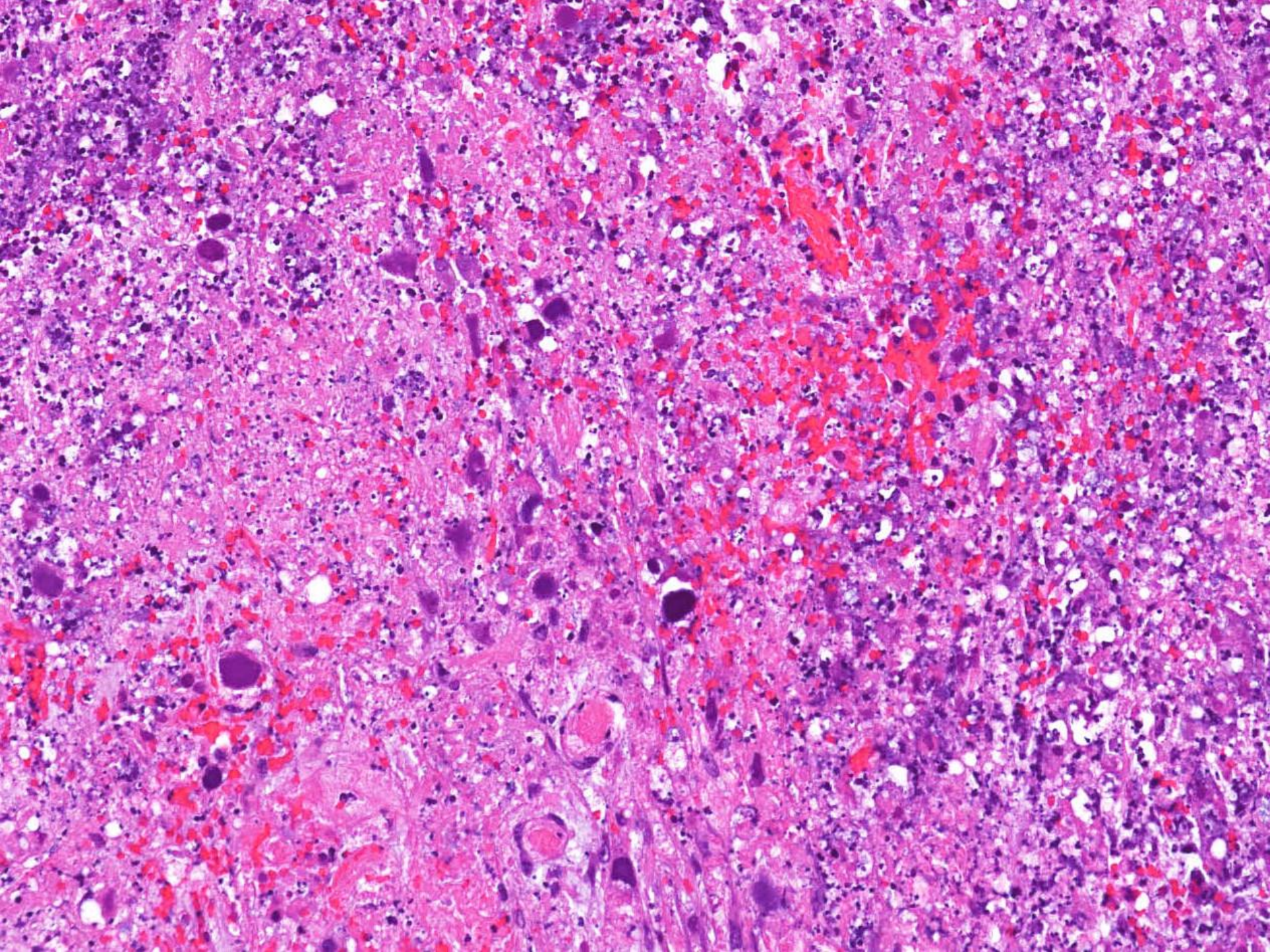
- ・ 実験に用いられていたSIV感染サル
- ・ 数カ月にもわたる黄疸、沈うつ
- ・ 実験のエンドポイントで安楽殺

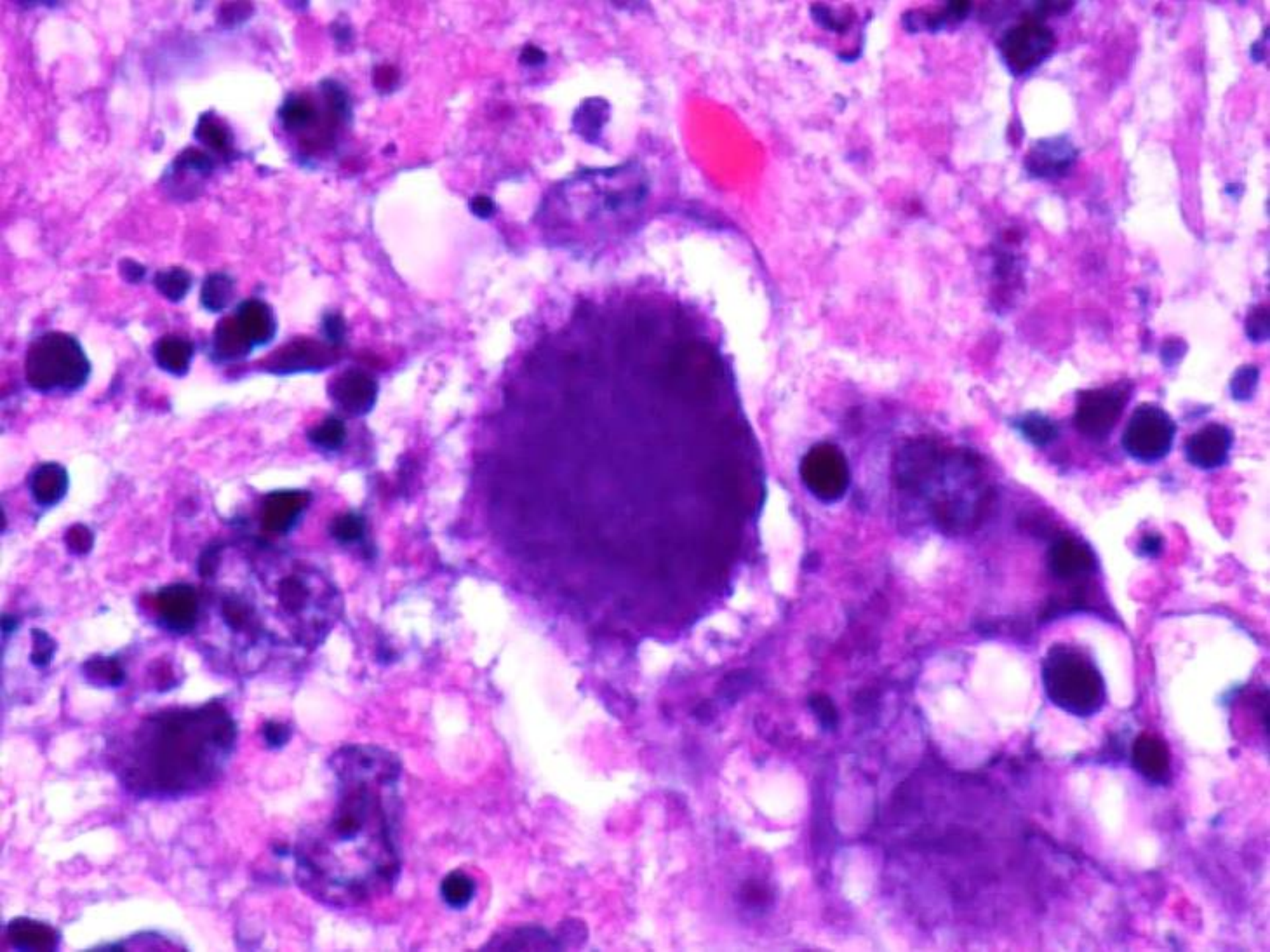
肉眼所見（臍臓）

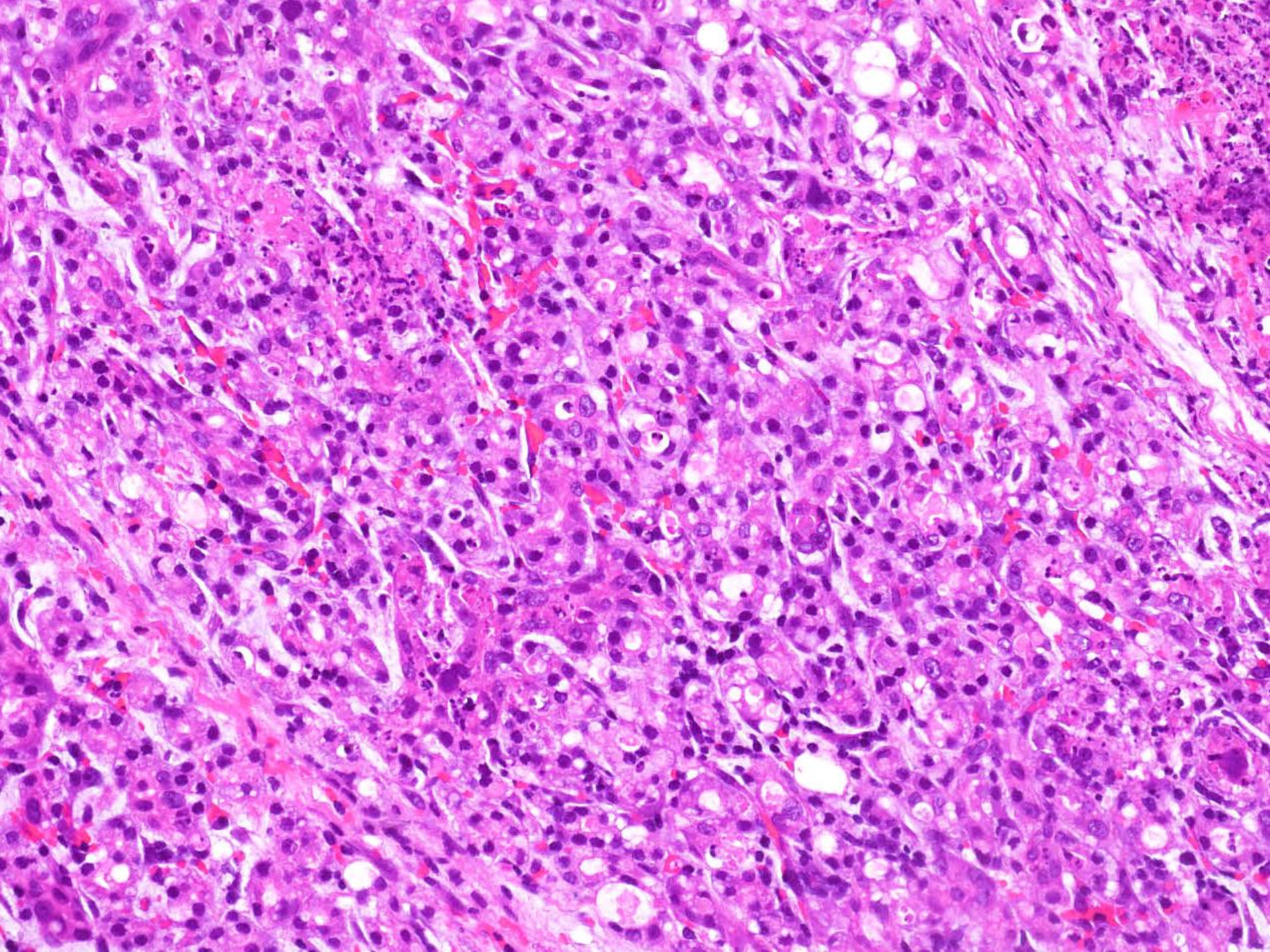
- 顕著に腫大、硬化
- 斑状出血、葉状構造明瞭
- 正常領域が斑状に存在





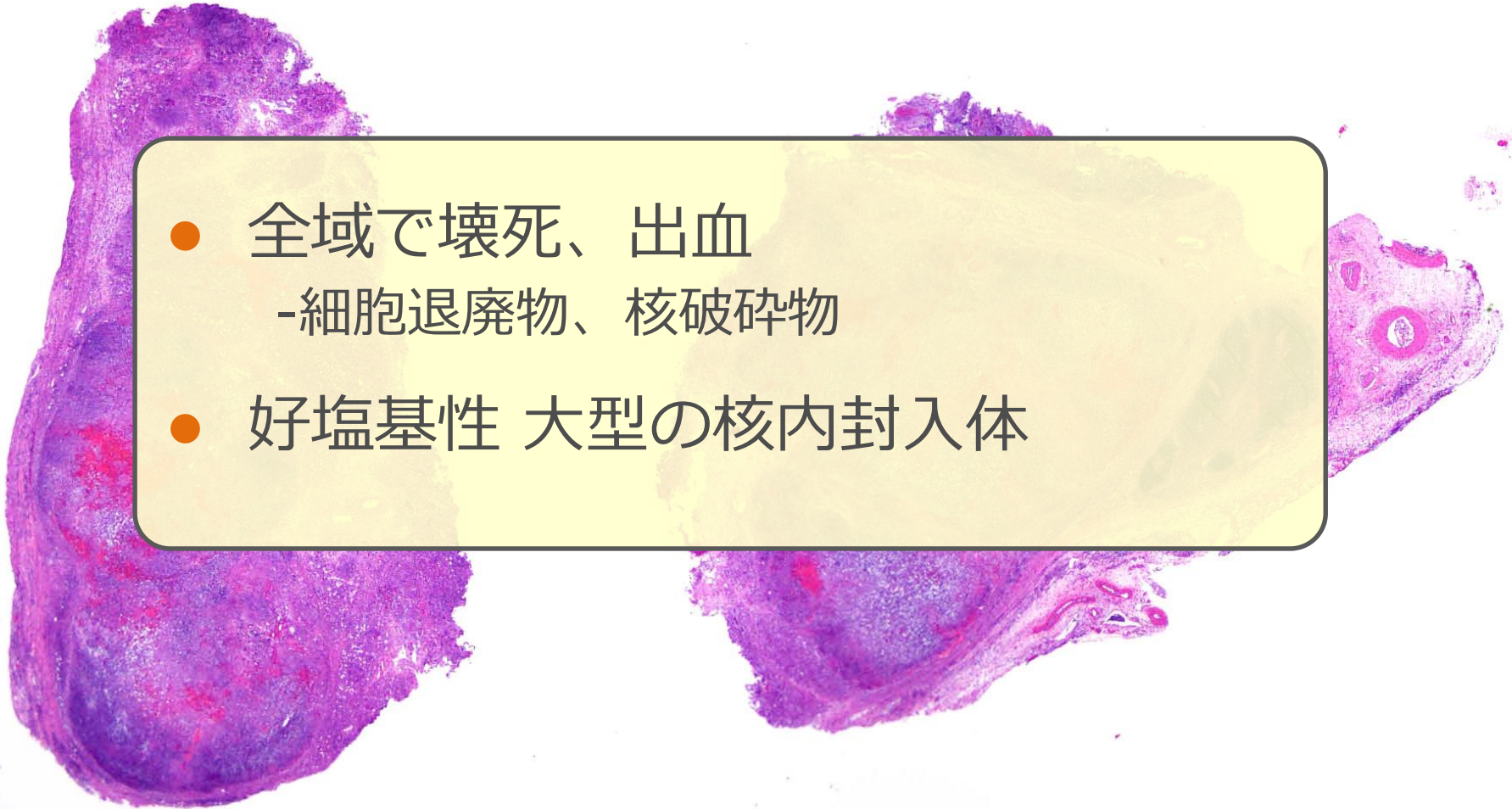






所見まとめ

- 全域で壊死、出血
 - 細胞退廃物、核破砕物
- 好塩基性 大型の核内封入体



提出者の診断

膵炎、壊死性および出血性、局所広範性からほぼび漫性、重度。大型の好塩基性および両染性核内封入体および顕著な再生性過形成領域（いくつかの標本で）を伴う

Pancreatitis, necrotizing and hemorrhagic, focally extensive to near diffuse, severe, with large basophilic and amphophilic intranuclear inclusion bodies and regions of marked regenerative hyperplasia (some sections).

病態

アデノウイルス性膵炎

Adenoviral pancreatitis.

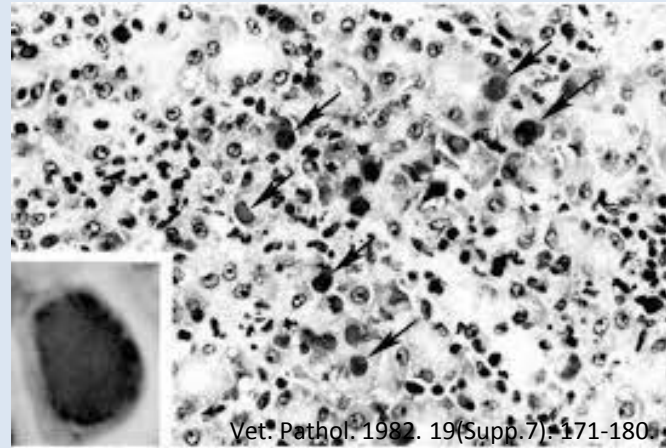
JPCの診断

膵臓：膵炎、壊死性、び漫性、重度。腺房萎縮および消失、多数の核内ウイルス封入体を伴う

Pancreas: Pancreatitis, necrotizing, diffuse, severe, with marked acinar atrophy and loss, and numerous intranuclear viral inclusions.

アデノウイルス性膀胱炎

- ・ アデノウイルス感染の際にまれに認められる
- ・ 組織像は核内封入体を伴う壊死性膀胱炎



- ・ SIVなどのレトロウイルス感染との関連も示唆されている
- ・ 典型例では 1～2週間で死亡
- ・ 全身感染の一分症ではなく病変は膀胱に局限

本症例で認められた黄疸の原因

- ・ 膵臓の腫脹と壊死によって胆管が圧排・閉塞したため？
- ・ 当該サルでは肝細胞、胆管上皮細胞に封入体は認められず

サルのアデノウイルス感染症

- ・ 多くは日和見感染。臨床症状は肺炎が多い

その他動物におけるウイルス性膵炎

- ・ 子馬におけるアデノウイルス性膵炎
 - 肺などでの感染が全身に波及した一分症
- ・ 牛でのBVDVによる膵島炎
- ・ 鶏アデノウイルス感染症の際の膵臓の壊死

アデノウイルスについて

- ・世界中に広く存在し、一般に種特異性が高い
- ・呼吸器および消化管の上皮細胞が最も主要な標的細胞
- ・その多くで 特徴的な両染色核内封入体を形成
- ・発症には免疫不全が引き金となることが多い

サルでの類似の封入体

- ・ Bウイルス、サイトメガロウイルス、SV40 など

